

平成28年度スカウトソング研修会実施概要報告

2016. 04. 10 現在

期 間：平成29年3月11日（土）13：30～3月12日（日）12：00

場 所：東京・築地本願寺

参 加 者：18県連盟47人（男 22人、女 25人）

初参加：33人 経験者：16人

部門別内訳：BVS指導者 15人、CS指導者 11人、BS指導者 10人、
RS 2人、団指導者 8人、スカウトクラブ 1人

スタッフ：主任講師 石原 徹 スカウトソング特別委員会 委員長
他、スカウトソング特別委員会委員4人、事務局2人 計7人

費 用：参加費 一人あたり4,500円（施設代、資料代、夕食代 他、消費税を含む）
宿泊代 一人あたり3,000円（希望者のみ、朝食代を含む）

プログラムと主な内容：

3月11日（土）

13：00 受付開始

13：30 開会式

開会式では、石原委員長から参加者への期待を込めた挨拶があり、セッションが始まりました。

13：40 役務分担表を配付して班内で役務を決めてもらう

13：45 §1 楽しい集い（楽しく歌おう）（30分）

担当：品田、石原 ピアノ：石原

参加者の緊張をほぐし交流を深めるため歌を利用するアイスブレーキングを交え、ゲームをしながら歌の歌を歌いました。

14：15 §2 セレモニーと歌（75分）

担当：石原、土山、品田 ピアノ：石原

セレモニーで歌う歌について、連盟歌「花はかおるよ」の歌い方やセレモニーでの指揮の仕方を学び、歌とセレモニーとのつながりについて学びました。

15：30 休憩（15分）

15：45 §3 ビーバー・カブと歌（80分）

担当：品田、後藤 ピアノ：石原

ビーバーとカブスカウト歌集を使い、それぞれの年代にあった歌の取り入れ方を学びました。ビーバーは歌集の絵をみてイメージを持たせることや、スカウトが飽きないよう歌をストーリー仕立てにして伝える方法などを学びました。

17：05 §4 イエールとアクションソング（55分）

担当：石原、後藤 ピアノ：石原

ビーバー、カブスカウト向けのアクションソング、ボーイ、ベンチャー年代ができるイエールを学びました。

18：00 夕食

休憩、グループミーティング（キャンプファイアの練習）



- 19:00 §5 キャンプファイアと歌（実習）（90分）
 担当：石原（実習）、土山（総括、講義） ピアノ：品田
 このセッションでは、キャンプファイアと歌のつながりや、キャンプファイアの場面にあった歌の演出の仕方などを学びました。
- 20:30 スカウトOWN・サービス
 担当：品田、後藤、石原、土山
 入浴・就寝（日帰り参加者は帰宅）



3月12日（日）

- 08:00 朝食（宿泊者）
 グループ毎にスカウトOWN・サービスを実施
- 08:45 朝礼
- 09:00 §6 ボーイスカウトと歌（60分）
 担当：石原、品田、後藤、山崎 ピアノ：石原
 ボーイ年代の歌を時間のある限り歌い、様々な場面での曲を学びました。
- 10:00 §7 活動とスカウトソング（45分）
 担当：石原
 参加者にワークシートを記入してもらい、自分自身が心に残っている歌、スカウトに歌ってほしい歌などを発表しました。また、歌の取り入れ方を発表し合うことでお互いに学び合うことができました。
- 10:45 休憩（5分）
- 10:50 §8 歌声を広げよう（60分）
 担当：品田
 グループ毎に輪唱やアクションソングなど、歌唱方法などを工夫した歌を発表しました。
- 11:50 閉会式
- 12:00 解散



《参加者の感想》

- ・セッションの長さがちょうど良く、集中して唄え、とてもいいと思う。あっという間に終了した感じですが、多くの歌を歌い、講師の方々がテンポよく進めたので充実した内容でした。
- ・色々な部門の歌や関連が分かったりした点、スカウトへどう教えるか、導入方法、指揮などを知れた点、営火の出し物、構成、進行などの点が良かった。
- ・自団のBVS、CS隊は少し歌う機会が少ないように感じます。改まった場面で歌うだけではなく普通の時にも歌えるようにしていきたい。
- ・集会の中で「さあ、歌を歌います！」ではなく、自然な流れの中で歌に持って行くなどアイスブレイクだけではない流れの作り方に、なるほど！と思った。

以上

委員長所感

スカウトソング特別委員会
委員長 石原 徹

今回のスカウトソング研修会は、47人の参加を得て適度な規模で開催することができ、各セッションは概ねスムーズに実施され、所期の目標は達成されたと思っている。公共交通の利便性の高い東京・築地で開催されたこともあり、18県連盟からの参加があり、7割以上の方が本研修会の初参加であった。

昨年末から本格的な準備に着手し、タイトなスケジュールの中で本番を迎えることになったが、スカウトソング特別委員会で編集した「スカウトソング研修会運営ハンドブック」を基本にセッションを企画・運営し、各セッションの具体的な展開方法については担当委員が実施計画を考案するという流れを踏襲したことにより、効率的な準備が可能となり、また、委員間の意思疎通も円滑に行うことができた。

本研修会では二人の委員が初奉仕されたが、同ハンドブックや各セッションの実施計画書を理解された上で奉仕されたため、自信をもって参加者の前で指導されていたことが印象的であった。

セッションは8つで構成し、各セッションの所要時間は30分から90分までと変化に富む時間配分とし、参加者の疲労度に配慮し、また、研修意欲の持続性の確保に努め、実施した。結果として、参加者の感想にあったように、セッションの長さは良好であったと思われる。

1日目は、歌を活用したアイスブレイキングからスタートし、連盟歌を始めとするセレモニー定番のソング、ビーバー・カブ歌集からのソング、イェールやアクションソングなどの実習を展開した。更に、参加者には、簡単な指揮の方法や模擬キャンプファイア（室内）を体験していただいた。2日目は、ボーイ歌集から活動場面に応じたソングの実習、活動現場でのソングの導入方法に関する座講及びグループごとの工夫したソングの創作・発表を行った。二日間のセッションの組立てや流れは、過去の実績を踏まえたものであり、参加者を飽きさせることなく展開されたのではないかと自負している。

しかし、参加者の感想等を集約・分析する中で、いくつかの今後の課題等を見出すことができた。以下、3点ほどの課題等を整理し、述べることとする。

1点目は、参加者のスカウトソングに関する習得度はまちまちであり、特に、ソングに触れる機会の少ない参加者に対する配慮やセッションの工夫が必要であること。そのためにも、歌唱指導や手法のあり方を引き続き探求していきたいと考えている。

2点目は、参加者の受講態度、感想等から受ける印象では、まだまだスカウトソングの意義、醍醐味といったものが十分浸透していないこと。今後も、引き続き、スカウトソング研修会を計画的かつ効果的に開催するべく、努めていきたい。

3点目は、地区又は団内でソングを指導する際の不安や疑問を抱えている参加者のアンケートや声を見聞きし、各地で研修会等を円滑かつ効果的に開催するために不可欠な人材（要員）の育成が急務になっていることを再認識したこと。かねてより、スカウトソングを指導する人材育成の具体策を検討してきたが、今年度、試行的にワークショップ方式による研修会を開催し、要員の育成に尽力していきたい。スカウトソングの普及・啓発を目的とするスカウトソング研修会と要員育成を目的とするワークショップ方式の研修会を並行して運営し、相乗効果が生まれることを期待したい。

以上